

赤谷プロジェクト近況報告

環境教育ワーキンググループ会議の開催

9月18日(木)、平成20年度第2回環境教育ワーキンググループ会議が開催され、赤谷プロジェクト地域協議会、(財)日本自然保護協会、関東森林管理局や赤谷センターの担当者が出席しました。

このワーキンググループでは、「赤谷の森」でしかできない環境教育の手法を検討し、赤谷プロジェクト独自の環境教育プログラムを作成することを目指しています。

今回は、現在「赤谷の森」で赤谷プロジェクト中核3団体が実施している環境教育の内容、対象者、目標等について整理を行い、それぞれのポイントや課題について話し合いを行いました。

この結果、当面は「赤谷の森」で活用できる環境教育の素材や施設を掘り起こすとともに、活動拠点である「いきもの村」の整備についても引き続き検討を進めて行くこととしました。



「赤谷の森」における環境教育について論議

JICA海外技術研修生の受け入れ

昨年に引き続き、森林技術総合研修所が実施している平成20年度海外技術研修「持続可能な森林経営の実践活動促進Ⅱ研修」の「参加型森林経営手法」の現地講義の一つとして、「いきもの村」や法師温泉においてJICA海外技術研修生に赤谷プロジェクトの取組を説明しました。



サポーター活動の説明
炭焼きには高い関心がありました

官民が協働で森林管理を行う試みは、海外ではあまり考えられないようで、何度も「立場は対等なのか」との質問がありました。その他、無償で調査研究活動に従事するサポーターの方々の活動が持続的に継続する理由など、熱心な質問が相次ぎ時間が足らなくなる程でした。

また、法師温泉では地域と水源・温泉源である森林との関係について、説明を行いました。



各国からの研修生の皆さん

研修生は、母国に帰れば森林・林業分野におけるリーダーとなる方々であり、赤谷プロジェクトの取組を母国での住民参加型の森林管理に活かして欲しいと願ってやみません。

平成20年度 第1回企画運営会議の開催

9月29日(月)、みなかみ町役場において、平成20年度第1回赤谷プロジェクト企画運営会議が開催されました。

当日は、赤谷プロジェクト地域協議会、(財)日本自然保護協会、関東森林管理局に加え、オブザーバーとして群馬県利根沼田県民局、みなかみ町、環境省中部地方環境事務所の担当者も出席しました。

今年度の赤谷プロジェクト事業計画や茂倉沢治山工事計画などについて話し合われた後、関東森林管理局からは、赤谷プロジェクトの植生管理や猛禽類モニタリングなどの各ワーキンググループごとに、見える結果を出していく取組として、中短期目標の設定について提案がありました。

また今回からは、赤谷プロジェクトの目標である「持続的な地域社会づくり」に取り組むため、県との連携も深めることを目的に、群馬県からも渡利根沼田県民局長にオブザーバーとして出席して頂きました。渡局長からは、「地域振興に関して、出来る限り赤谷プロジェクトに協力していきたい」との心強い挨拶がありました。今後も赤谷プロジェクトの取組をより一層、地域に浸透させていきたいと考えています。



地域協議会、岡村会長の挨拶